

さざんか

第100号、2010年3月

巡り来る季節。去年の春は何をしてたのだろかさえ思い出せないまま、また今年も春が巡り巡ってきました。年度制をとっているわが国では、春は年度替りというか、色々な職場とか学校で転勤とか卒業とかあるいは進学や就職の節目の時期になっています。つまり別れと出会いの季節。あるいは旅立ちの季節。

散る桜、残る桜も、散る桜。こういう冷静な見方もまたあるし、たとえ、今回散ってもまた来年は必ず咲くのだという楽観的な見方もあるでしょう。

桜だけが春の象徴ではないのですが、やはり、国民こぞって桜の咲くのを楽しみに待ち、咲いた桜の花を見に行き、桜の花の下で酒を飲み、浮かれ、散り行く桜の花の下で死にたい（願わくは花の下にて春死なむ、と詠んだ西行など）と思ったりするのは四方を海に囲まれて山海美しく四季に恵まれた日本列島に何千年も住んできた日本人のDNAなのでしょうね。「同期の桜」に象徴されるように、同じときに苦楽をともに過ごした仲間は特別だと思うのもまた日本人の特性の一つなのかもしれません。

理屈抜きで、桜が咲き始めると心が騒ぎ、満開になると楽しくなり、散り始めると寂しさを、個人の力では及びもつかない自然の摂理を感じながら過ぎ行きていくのが毎年のことです。楽しい春、辛い春、悲しみの春。あるいはいつもと同じ春。今年もまた沢山の思い出を残しながら春がやってきて、過ぎ去ろうとしています。みなさまにとって、今年の春はどんな春なのでしょう。

県立北薩病院の理念

慈愛・協調・前進

県立北薩病院の基本方針

1 患者さんの満足、ご家族の安心を提供します

2 急性期医療の実践と、より高い専門医療を追求します

3 地域の医療、福祉との連携を強め、これを支援します

4 仕事を通して喜びと生き甲斐を追求します

俳句 西屋敷喜美子

リハビリの 痛みに涙 春浅し

看護師の 手際の良きし 朝がすみ

苦しさも 醜さと耐へ 春はじめ

カラーウーマン

悲しみや 青空あおぎ 桜咲く

喜びを 君と抱きしめて 桜咲く

ふたたびは 会えぬ別れか 桜咲く

病院からのお知らせ

- * 猛威をふるった新型インフルエンザもやや沈静化しつつありますが、手洗い励行はそのまま続けましょう。発熱して心配な方は、早めに受診してください。
- * 新型インフルエンザワクチンは国民全員にわたる量は確保されたということですので、希望者にはおそらく全員接種できる見込みです。接種可能な方には病院事務からお宅に電話で連絡することになっています。
- * 病院内では、全ての方にマスク着用をお願いしておりますので、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。
- * 骨密度、測ってみられましたか？ご希望の方はいつでもできますので、各科窓口でおたずねください。適切な治療で骨粗しょう症の進行を予防できることがあります。骨密度を上げるお薬を服用している方は、骨密度が上昇したかどうか確認してみたいかがでしょうか。骨折予防は寝たきり予防につながります。

骨年齢：あなたの骨は〇〇歳です。という表示が出ます。

* MRI で脳の検査をしてみませんか？目的は脳卒中や認知症（ボケ）の予防につながることもあるからです。また、脳動脈瘤の発見にも威力を発揮します。脳ドック以外でも脳神経外科または神経内科外来にてご相談ください。

無症候性の病変（症状はないけど梗塞がある）がみつかれば予防の治療を開始した方もおられます。寝たきりや認知症にならないためにも一度は検査されることをお勧めいたします。

* MRI は腰痛の検査にも威力を発揮します（脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニアなど）。あるいは肩こりや手のしびれの原因を探すのにも有用です。精密検査希望の方は神経内科外来にてご相談下さい。

* 新式のマンモグラフィーが導入されております。乳がん検査に威力を発揮いたします。近年乳がんが増加傾向です。乳がんが気になる方は外科外来へお申し出ください。

* 4月から一部の医師の異動があります。

内田章文→田口宏樹 先生

堂嶽洋一→米澤英里 先生

平野拓郎→上村豪 先生 に変わります。

よろしく願いいたします。

■■■■ ニッポンはニッポンを超えられるか ■■■■ カラーマン（とそのオンナ）

なんか、禅問答みたいな話しである。松井秀樹は松井秀樹を超えられるか。あるいは、イチローはイチローを超えられるか。それと似たようなものだろうか。

松井秀樹は今年エンゼルスに入団して、もしかしたら自己最高の打率と打点とホームラン数を残すかもしれない。そうすると、（エンゼルス）の松井秀樹は（ヤンキース）の松井秀樹を超えたことになる、と言ってもまあ間違いではないだろう。

（まあ、そうだねえ。でも、だから、いったい何なの？カラーマンさんは何をおっしゃりたいのかしら。）

私が言いたいのは、そういうことだ。こんな分かりやすい松井の例をだしているのに、いまだに分からずにいるとは、良く私のパートナーが務まっているなあ。なんなら、カラーマンの女はクビにして新たに「カラーマンの彼女」を募集してもいいんだけど。

（ふん。まあできるものならね、どうぞ、募集あそばせ！あたしは自信を持って言えるわ。「カラーマンの彼女」に応募するバカ女は、決して1人たりともこの世には居ないとね。まあ、あの世とかにはいるかもしれないけどね。或いは妖怪の世界とかね。砂かけばばあくらいはね。そんなことより、こんなつまらないことで紙面のムダ使いはやめて本題に入

りなさいよ。)

ニッポンはこれまでのニッポンよりも幸せになれるだろうか。紫式部の平安時代や元禄期の江戸時代のほうが幸せ、だったという人も居るかもしれない。でも、総体的な話で言うと、昔は乳児死亡率も高いし、感染症も蔓延していて平均寿命も短いし、一部の貴族とかサムライとか豪商とか選ばれた人（エリート）達にとっては、現代よりもこれらの時代のほうが幸せだったかもしれないが、多くの人々（庶民、大衆、民衆、一般国民）にとっては、現代の方が幸せなのではないだろうか、と思うのである。

もちろん、平安時代とか江戸時代にタイムスリップしてアンケートをとる訳ではないから（あなたは今の江戸時代と未来の平成時代のどちらが幸せとしますか？徳川吉宗将軍と鳩山首相、あなたはどちらの方が、行動力があると思いますか？いま行われている享保の改革と、鳩山政権のマニフェストのどちらが、実効性があると思いますか？なーんて聞くのかしらねえ）、どちらが幸せかという問いにはあまり意味はないのかもしれない。

ぐっと近づいて、戦前と戦後とどちらが幸せか、と聞いても所詮それも意味のない事なのかも知れない。戦前に幸せと感じる人もいるだろうし、戦後の方が良かったと思っている人も居るだろう。そもそも、それは人生のステージによっても異なるであろう。

青春時代を不自由で強圧的な環境で過ごさざるを得なかった人にとっての戦前は、あまり、いい時代ではなかっただろう。一方、年老いて、人情が薄くなり、子供達に見離されたお年寄りにとっては戦前の大家族主義の時代のほうが、戦後よりも良い時代だったと思えるのかもしれない。

戦前、戦後での一番の違いは何かというと、多分、個人の自由が十分認められたか否かであろうと思う。ファシズム下で一番制限されたのは自由であるし、共産主義下でも人々は自由を求めて命を賭けて闘った。さほどに、自由と云うものは人間の本質的でかつ強い欲求なのであろうと思う。戦後、米国に負けて、米国文化を押し付けられたニッポンは、自由を手に入れた。（もちろん、米国に逆らわない範囲で自由である。自分で勝手に自分の国を守る、なんて考えさせてももらえなかったわね。）

アメリカを模倣した沢山の自由を戦後のニッポンは手に入れた。家父長的な家族制度は軍国主義の大元だったといわれて解体され、家族の縛りからニッポン人は自由になった。

若者は、田舎を捨てて都会に出る自由を与えられた。土地に縛り付けられるということは、もうなかった。古臭い家同士の付き合いではなく、自由に恋愛をして、自由に結婚することができた。親が反対しても、それを貫くことが出来る自由があった。親を説得して、時には、反抗して都会に出て勉強したいという欲求を満たすことが出来た。自由な社会が

それを保障してくれた。

しかし、個人の自由と引き換えに失うものは、意外と大きかったようにも思えるのである。多くの若者が都会に出て、恋をし、家庭を築き、その地に根を張った。そこが第二の故郷となり、そこで家を建て、子供を育て、やがて子供達も一人前になって家を出て行く。

その結果、都市は栄え、地方は衰えた。

田舎に残されて老親は、いまでは、子供が帰って来るあてもなく暮らしている。先祖から続いた、米つくりや農業も跡継ぎがないので、実質廃業である。面倒を見てくれるはずの子供達はみんな都会に出て行ったので、いまは、民生委員とか福祉相談員とか、ケアマネージャーとかなんか聞いたこともない名前の人に相談に乗ってもらっている。

しかし、相談とは言っても、所詮、表面的なことだけだ。子供達が、帰って来るのであればまだしも、それ相応に年とった都会に出て行った彼らも、望郷の念はあっても、実際は帰れない。田舎には仕事がないし、生活が成り立たないし、そもそも友人関係などの人的インフラも都会では築き上げたが、今更、ふるさとに帰ってもそんなものは、何もない。

ニッポンはニッポンを超えられるのだろうか。これまで、いろいろなカタチで生きてきたニッポンを超えることができるのだろうか。平安鎌倉時代、江戸時代、明治大正昭和時代よりも幸せになれるのだろうか。

(幸せってどういうことなのか、そこから考えないといけなくなるわねえ。モノとカネにのみ価値観をおいてたら、多分、もう幸せにはなれないような気がするなあ。あたしはニッポンはニッポンを超えられると信じているけどなあ。それよりも、アタシに幸せはいったい来るのかしら。アタシ個人で言えば、お金があれば幸せなんだけどなあ)

都市からではなく、地方が豊かになれないとニッポンはニッポンを超えられない。これが、全く今回の議論からは帰結しない突飛な結論である。そのためにどうするか？それが政治の役割であろう。どこまで政治に期待できるかは別にしても。

編集後記

遠く中国の地からの黄砂なのか、桜島の降灰なのか、春霞なのか区別がつかないようなかすんだ景色の日々が続いています。容赦ない時の流れを感じるのは年を取った証拠なのでしょうが、そんなことはずっと徒然草の時代から、いやもっと昔の源氏物語の時代から人々が感じていたことなのかと思いを馳せる時、そこでまた時の確実な流れを感じてしまいます。無常観に裏打ちされた「いま、ここに」というのが、日本人に最もあう感性なのでしょうが。気がつけば、この「さざんか」も第100号でした。(KT)